

指導日時：平成30年10月18日（木）第5校時
指導学級：第2学年4組（男子16名、女子24名）
指導者：石巻西高等学校 教諭 藤咲智也

1 単元名

短歌と俳句 短歌 （数研出版「改訂版 現代文B」）

2 単元の目標

- (1) 短歌に関心を持ち、詩歌内の言葉をもとに想像力を働かせながら読み味わおうとする
【関心・意欲・態度】
- (2) 短歌を読み、特有の表現に注意しながら具体的な言葉や表現に即して情景や心情を想像する。
【読む能力】
- (3) 短歌特有の表現技法や歌人毎に作品の特徴があることを理解する。
【知識・理解】

3 指導にあたって

(1) 単元について

この題材において中心となる指導事項は、学習指導要領の「読むこと」のイ「文章を読んで、書き手の意図や、人物、情景、心情の描写などを的確にとらえ、表現を味わうこと。」である。この指導事項は小説や詩歌といった文学的文章を題材に指導することが望ましいものである。中でも短歌は31文字という短い言葉の中に歌人達の独自の世界観が凝縮されており、言葉の一つ一つに注意するとともに、各歌人の人物像や作風を意識しながら深い解釈を試みるのに適している。

本単元は近現代の代表的な歌人8名の作品を扱う。掲載されている各歌人2首ずつ、計16首であり、取り上げられる歌人はそれぞれが特徴的な作風を有しているため、本単元の目標を達成するために極めて有効な作品群であるといえる。

(2) 生徒の実態

本校では全校での取組みとして朝読書を実施しており、日常的に読書の習慣が身に付いている生徒が多く、当該学級のほとんどの生徒も日常的に読書に親しむ姿勢が身に付いている。一方で、日々の読書においてはやはり小説を選択する生徒が大半であり、短詩に常日頃から親しむ生徒はほとんどいない。

生徒は昨年度実施の国語総合の授業において短歌及び俳句について学んでいるものの、日本の伝統的な定型詩に特徴的な限られた字数のなかに込められた作者の心情や情景について想像力を働かせながら読み味わうことには十分に慣れることができずにいる。本単元では各短歌の細かな表現にも注目しながら、台詞に込められた心情・真意を理解するための思考のプロセスを丁寧に整理し、自分なりの読みを明確にする姿勢を定着させたい。

(3) 指導について

この単元においては、3つの観点における目標を達成させる上で、①短歌特有のリズムや表現に着目しながら正確に解釈を行うとともに想像力を働かせながら読み味わうこと ②歌人毎に特徴的な作風を理解しながら短歌に込められた思いを読み取り鑑賞すること の二点が重要であると考えられる。そこで、以下の活動を軸にして指導していく。

1つ目に、短歌のリズムや語感に慣れ親しむため、様々な形での音読を行う。個々の音読をペアやグループで聞き合う活動を通し、短歌特有のリズムを実感するとともに、区切れを意識しながら鑑賞を行うことができる能力を身に着けさせる

2つ目に、歌の内容・作者の込める思いを自分なりに考察し、その結果現れた意見を表現する機会を設定する。そのために、自らの意見を的確な言葉で表現するための「書く」時間を十分に取るとともに、他の生徒と意見を交わし合うグループワークを適宜取り入れる。他者との意見交流を行うことで、自分一人では気付かなかった新しい視点を学び、自己の意見をより深めていけるような指導を行っていく。

4 単元（学習材）の評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・短歌に関心を持ち、主体的に歌の解釈に臨みながら鑑賞することができる。	・歌人ごとの作品の特徴を捉えながら個々の短歌を解釈し、読み味わうことができる。	・短歌特有の表現方法や抽象的な語彙を理解することができる。

学習活動の具体的評価規準

関心・意欲・態度	読む能力	知識・理解
・短歌特有の表現やリズム、歌人についての知識を手掛かりにして、主体的に鑑賞しようとしている。	・歌人の人物像や作風が個々の作品に反映されていることに気づくことができる。 ・作品に込められた作者の心情を正確に読み取り、自分なりの感想を持つことができる。	・表現技法や語句の意味、用法を的確に理解している。 ・31文字という字数の少ない定型詩の内容を正しく読み取ることができる。

5 単元の指導と評価の計画（全4時間）

	学習内容	学習活動における主な具体的評価基準	評価
第1時 本時	・知的構成型ジグソー法を用い、歌人の人物像や作風が作品に反映されていることを学ぶ。	・資料を参考に作者の人物像や作風を読み取り、グループや学級での話し合いを通して短歌に込められた情景や作者の心情を想像し解釈することができる。【読む能力】	ノート ワークシート
第2時	・短歌のリズムに慣れさせ、近現代短歌の基礎的な知識を学ぶ。 ・斎藤茂吉、釈道空、斎藤史の短歌について、読解・鑑賞を深める。	・短歌に関心を持ち、主体的に歌の解釈に臨みながら鑑賞することができる。【関心・意欲・態度】 ・歌人ごとの作品の特徴を捉えながら	ノート
第3時	・岡井隆、河野裕子、佐佐木幸綱の短歌について、読解・鑑賞を深める。	個々の短歌を解釈し、読み味わうことができる。【読む能力】 ・短歌特有の表現方法や抽象的な語彙	ノート
第4時	・栗木京子、水原紫苑の短歌について、読解・鑑賞を深める。 ・印象に残った歌を選び鑑賞文を書く。	を理解することができる。【知識・理解】	ノート ワークシート

6 本時の指導

(1) 題材名 短歌

(2) 本時のねらい

作者の人物像や作風を参考に、短歌に込められた情景や作者の心情を想像し、短歌を読み味わう。

(3) 本時の評価規準

評価の観点	具体的評価規準	Aとする具体的な姿
読む能力	資料を参考に作者の人物像や作風を読み取り、グループや学級での話し合いを通して短歌に込められた情景や作者の心情を想像し解釈することができる。	資料から読み取った内容を適切にグループ内で説明できるとともに、グループ内での交流を通して各歌人の特徴に着目しながら短歌を読み味わうことができる。

(4) 学習指導上の工夫

他人の考えに触れ、自己の考えを高めさせることを目的とし、グループワークを取り入れる。その際、個々の生徒に主体的に学習に臨む姿勢を持たせるため知的構成型ジグソー法を取り入れる。

(5) 準備物

教科書・ノート・新国語便覧・国語辞典・筆記用具・エキスパート活動用資料3種

(6) 本時の展開

段階	学習活動	形態	指導上の留意点	評価
導入 8分	1 本時の学習課題を知る。	一斉		
	作者の人物像や作風から、短歌に込められた情景や作者の心情を想像する。			
	2 知的構成型ジグソー法について説明する。			
展開 35分	3 エキスパート活動を行う (10分) 4人の歌人（斎藤茂吉・岡井隆 佐佐木幸綱・栗木京子）に関する資料を読み取り、人物像や作風についてワークシートにまとめさせる。	グループ	5人グループをつくり、各グループで1人の歌人を担当し資料を読み取りまとめる。 ・机間指導を行いながら、必要に応じて支援を行う。	【読む能力】 資料を参考に作者の人物像や作風を読み取り、グループや学級での話し合いを通して短歌に込
	4 ジグソー活動を行う。 上述の4人の歌人の作品を1首	グループ	・担当歌人の異なる4人でグループを作り、交流を行う。	

	<p>ずつ各グループに配布し、グループ内での交流から理解した各歌人の人物像・作風をもとにどの歌人の作であるかを理由と共に考える。</p> <p>グループの解答をホワイトボードにまとめさせる。</p> <p>5 クロストークを行う。 ホワイトボードを黒板に貼り、各グループの解答の共通点・相違点について確認する。</p>	一斉	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の担当していない歌人の特徴についても説明を聞き理解しようとするよう指示する。 ・活発な意見交換が行われるよう机間観察を行う。 ・グループの代表者に発表させ、各グループの意見を共有する。 	<p>められた情景や作者の心情を想像し解釈することができる。</p> <p>(発表/ワークシート)</p>
<p>終結 7分</p>	<p>6 正解を発表し、本時の振りかえりを行う。</p> <p>7 本時の学習と次時以降の学習とをつなぐ見通しをもつ。</p>	<p>個別</p> <p>一斉</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・振りかえり用紙を記入する。 ・グループでの解答と正解が異なっていた場合はその原因も考えながら振りかえるよう指示する。 	